

平成28年度 各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	県北教育事務所	学校名	久慈市立小久慈小学校	TEL	0194-59-3555
------	---------	-----	------------	-----	--------------

確かな学力保障に向けた「学校における組織的な対応」の強化と小・中連携

〔今年度の目標〕

- ・算数科における正答率50%未満の層を10%減少させ、80%以上の層を10%増加させる。
- ・児童生徒質問紙「学校での勉強が好きですか」「授業の内容がわかりますか」の項目で、積極的肯定を選択する児童を10%増加させる。

〔組織的な対応を図る上で工夫した点〕

- I 校内研究(算数科)と連動した学力向上の取組
- II 「まなびフェスト」の推進
- III 小・中学校の連携

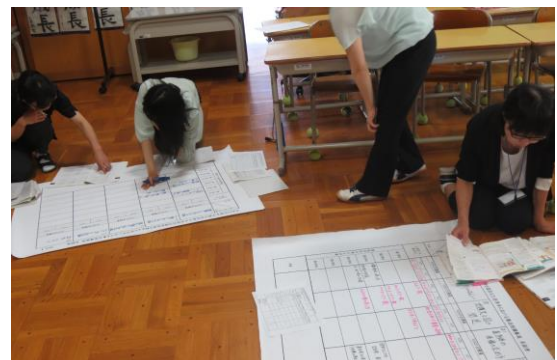
それぞれの調査結果を基に分析を行い、落ち込んでいる項目の中から、重点的に取り組む項目を明らかにし、系統性を洗い出した。関連学年の単元の指導書に付箋を貼り、全学年で意識的な指導をするようにした。

〔具体的な取組〕

- I 校内研究(算数科)と連動した学力向上の取組
 - 1 全国学調・県学調結果(小5・中1)に基づいた重点指導事項の洗い出し

平成28年度 岩手県中学校新入生学習状況調査結果を踏まえた各学年における重点指導事項 系統表

重点的に指導が必要な問題・番号	1-(1) 整数の四則計算ができる。		1-(2) 小数の加法計算ができる。		1-(3) 帯分数の減法計算ができる。		7 面積を求める式が表す図形を読みとることができる。		14 比の利用の問題を解くことができる。		
	H29の目標値 60%		H29の目標値 80%		H29の目標値 75%		H29の目標値 50%		H29の目標値 45%		
	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	H27	H28	
正答率%(県平均)	48.8 (77.2)	47.8 (79.3)	69.8 (88.2)	67.4 (83.3)	46.5 (73.8)	50.0 (76.0)	11.6 (36.4)	28.3 (40.4)	14.0 (40.1)	30.4 (49.7)	
関係学年の単元	第1学年	簡単な2位数の加法・減法		簡単な2位数の加法・減法		面積の概念の素地					
	第2学年	計算の仕方を工夫しよう		簡単な3位数の加法・減法		簡単な3位数の加法・減法		倍とかけ算			
	第3学年			小数の加法・減法(小数第1位)		同分母分数の加法・減法		倍の問題			
	第4学年	計算のやくそくをしよう		小数の加法・減法(小数第2位・小数第3位)		同分母分数の加法・減法		面積の概念と面積の求め方と公式		わり算 倍の問題	
	第5学年					異分母分数の加法・減法		平行四辺形、三角形、台形、ひし形の面積の求め方と公式、面積の概測		割合 変わり方を調べよう	
	第6学年							円の面積の求め方と公式		比の利用	
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の繰り上がりのたし算、繰り下がりのひき算を徹底させる。 ・九九、わり算を徹底させる。 ・面積の公式を確実にさせる。 ・問題を解いて、習熟を図る。 ・図を使って説明する。 										





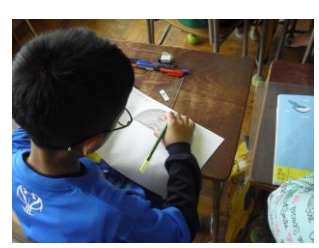



系統性を踏まえた算数科の重点指導事項の洗い出しを行なった校内研修会 (H28・8・3)

2 各種調査結果を生かした授業実践…調査から改善が必要な単元を選択しての授業実践

○実践例 4年「角の大きさの表し方を考えよう」

平成27年度の全国学調の角の大きさを正しく測定する問題では、全国の正答率は58.2%、県の正答率は55.2%、本校の正答率は25.5%だった。そこで、授業改善のために、県から出されている「確かな学び、豊かな学びプロジェクト」を参考にし、いわての授業づくり3つの視点「学習の見通し・学習活動・振り返り」を取り入れ、主体的・協働的な学習展開となるように工夫した。

	学習活動	○児童の思考 ◎児童の問題	支援と評価
導入 5分	1 問題を把握する。 ・アの角の大きさは何度ですか。 	○180° より大きい。 ○一度こ測れそうにない。 ◎180° より大きいから分度器で直接測りたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 角の大きさの見当を付ける場を設定した。 </div>	 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 角の大きさの見通しについて話し合い、学習のねらいを明確にする。 </div> <p>手立て1 考えをもつ 角度を求める1つ目の方法を(180° からたず)考える場を設定する。</p>
展開 25分	3 予想する。 4 自力解決する。 ・各自で求め方を考える。 5 ベアで交流する。 	○2 直角より大きく3直角より小さい。 ○180° になる所に線を引いて角度イを測ってだそう。 ○たし算をしてもいいの？ ○まず180° を分度器で測る。次にもう一枚の分度器を下部分にあてて、残りの部分の大きさをメモリを読んで測る。180° , 190° , 200° と読んでいくと210° になる。 ○360° からウをひけばアになる。 ○なぜ360° を使うのか。 ○150° はどこの角度か。 ○この方法は、線を引かなくても求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習シートを用意する。 ・答えだけでなく、考え方の説明(言葉、図、補助線、式)も書かせる。  <ul style="list-style-type: none"> ・ベアの交流で解決できなかったことを全体的話し合いで解決させる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 数学的な考え方【発言・ノート】 </div> 
終末 15分	7 まとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 180° にたす方法と360° からひく方法がある。 </div>	○分度器の使い方を工夫して角度を求めることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題では、自分が良いと思う2通りの方法で解かせ、学んだことが活用できた良さを実感させる。
	8 問題を解く。 P27の問題に取り組む。		
	9 学習を振り返る。		

3 学習基盤づくり

学習規律の統一的な指導のために作成した。

学習訓練、話型指導、ノートの使い方、家庭学習の取り組みせ方などをまとめたもので、これを基に全学級で統一指導している。

学習規律 指導ハンドブック ～小久慈っ子BASIC～

指導スローガン

『いつでも』『どこでも』『誰もが』
同じ指導スタンスで



小久慈っ子BASIC

日頃の授業を通して育てる「学習習慣」として、次の5つを、全校で統一しながら進めていく。

- ①学習規律を育てる
『学習訓練』
- ②自分の考えを他者に伝えるために
『発言の声の大きさ』
- ③様々な表現に触れ、表現力を高める
『さよなら音読』
- ④言語活動の充実のために
『話型』
- ⑤学習の基盤として
『めざそう！学習名人！！』

2 学習規律の共通確認

5月には、長内中学校区の3校（小2校・中1校）が集まり授業参観、学習規律等について話し合い、そこでは、学習の準備や発言の仕方について取り組む内容を確認した。また、校内授業研究会における研究授業を参観し合い、児童生徒の実態の交流や学習指導についての交流を行い、それぞれの学校での指導に生かすようにした。

3 授業改善の取組

5月の第1回小・中交流事業において小・中学校の授業改善の担当者が集まり、各校での取組内容や実施状況を話し合った。また、調査分析結果を共有し中学校で落ち込んでいる部分についての系統性を洗い出し、指導書に付箋を貼り意識的な指導を図る手立てを組んだ。

(年間の流れ)

◎は実施，○は計画を示す。

学 期	1 学期	2 学期	3 学期
家庭学習強化週間の設定 (H27年度からの継続)	◎	◎	○
学習規律の共通確認・実施	◎ (5月授業参観・話し合い)	◎	○
授業改善の確認		◎ (9・11月授業参観・話し合い)	○

〔成果〕

- 平成28年度岩手県学習定着度状況調査の5年生算数科においては、正答率50%未満の層は平成27年度と比べると1%減少し、正答率80%以上の層においては7%の増加が見られた。目標の10%には届かなかったが、平成26年度からの経過を見ると着実に向上しており、学力保障に向けた取組の成果が表れてきていると感じられる。

県学習定着度状況調査 (第5学年の算数)		
	正答率50%未満の層 (%)	正答率80%以上の層 (%)
H26	62	8
H27	39 ↓	15 ↑
H28	38 ↓	22 ↑

- 児童生徒質問紙においては「算数の勉強は好きですか」の項目で、肯定回答を選択した児童が5年生で14.5%、6年生で2.5%増加した。

「算数の勉強は好きですか」		
	5年生の肯定割合 (%)	6年生の肯定割合 (%)
H26	73	48.9
H27	55.5 ↓	60.5 ↑
H28	70 ↑	63 ↑

「算数の授業の内容がわかりますか」の項目では、肯定回答の選択児童が5年生で10%増加した。

「授業の内容がわかりますか」		
	5年生の肯定割合 (%)	6年生の肯定割合 (%)
H26	84	61.1
H27	79 ↓	62.5 ↑
H28	89 ↑	61.8 ↓

全職員で課題点を共通確認し、授業改善を行った結果「わかる」授業へつながり、学習へのさらなる意欲を喚起できたと考える。

- さまざまな小中連携を通して、各種調査結果の分析や授業改善の取組、児童生徒の実態を交流し共通理解することで系統性を意識した指導ができた。その結果、数値的にも成果が見られ、子どもたちの表情に意欲や自信を感じるようになった。